

牧山コミュニティだより

発行 牧山地区コミュニティ協議会

【牧タクの現状】

令和5年7月1日から本格運行開始。試験運行時は、利用者数が月平均10.3人(3か月平均)、本格運行時、月平均15.2人(7月～10月平均)で4.9人増加している。しかし、実質的には恒常の利用者を除くと月に2～3名利用している。特に最近、通院の片道利用が目につく。往復利用して貰うと利用率のアップが期待できる。新顔で利用が以前に予想されていた人が、乗車されだしました。そして、利用者の体験談をお伺いしました。



令和5年7月1日から本格運行開始。試験運行時は、利用者数が月平均10.3人(3か月平均)、本格運行時、月平均15.2人(7月～10月平均)で4.9人増加している。しかし、実質的には恒常の利用者を除くと月に2～3名利用している。特に最近、通院の片道利用が目につく。往復利用して貰うと利用率のアップが期待できる。新顔で利用が以前に予想されていた人が、乗車されだしました。そして、利用者の体験談をお伺いしました。

「牧タク」に乗車して

「牧タク」の文字入りの小さな垂れ幕ステッカー以外は、普通のタクシーと変わりありません。前日の18時までに電話予約しますが、「牧タク」のエリア外へ行く時は最終目的地も伝えておきます。当日、家に迎えに来てくれた「牧タク」は「大原橋」を過ぎて「JA 牧石支所」を通過すると、メーターを上げて普通のタクシーに戻ってくれます。降りる時、「牧タク」料金と合わせて支払いましたが、1,000円余りのお得でした。ちなみに私は「愛カード」も使います。運転免許証(原付のみでも可)を返納して申請交付されるものです。タクシー料金が1割引になります。(但し、会社によっては不可)

杉山啓子(郷)

【このような方々を、援助しもっと深く掘り下げていくと利用者の定着に繋がると考えております。】

【納涼大会】



ステージ作り作業中



上谷 模擬店



総踊りの輪

牧山地区納涼大会が8月12日(土)に開催されました。4年ぶりの夏祭りには250人程の人が集まり、屋台も列ができるほど活気にあふれていました。また盆踊りも大きな円ができ、おなじみの曲に合わせ、老若男女が満面の笑顔で踊りました。例年にない暑い夏でしたが、この夏祭りが地域の活力になったと感じました。

夏祭りやイベントの大成功は、準備、当日の運営、翌日の片付けと暑い中頑張ってくださいました地域のボランティアの方々の力があってこそです。本当にお疲れさまでした。そして、ありがとうございました。

【農援隊】

下牧農援隊は平成26年11月に下牧有志により設立され、初代代表は西崎國雄氏、現代表は小寺昭憲氏です。現在の構成員は42名の登録です。

農援隊と言えば草刈隊というイメージが強いが、本来は、農業生産活動を継続させ、多面的機能（洪水や土砂崩れの防止、美しい風景や生物のすみかを守る）を発揮させるための制度です。その活動に対して、国が県・市と連携して交付金により支援しています。草刈り作業は、生産をやめた農地をいつでも復帰できるようにする手段をして公認されています。

年々、生産者だけではなく草刈りメンバーも減少している状態ですが、遊休農地の有効利用として、外部農業者をいかに計画的に増やしていくか、現在積極的に取り組んでいる課題です。尾原俊夫（中谷）

中牧・郷農援隊は平成5年4月、地域内にある耕作放棄地解消のため下牧農援隊を手本に発足しました。

近年、猪が多数出没しておりその住みかの解消及びさらなる耕作放棄地をなくすため、田畑の草刈・伐採と水路・農道の草刈りを行っています。

旭川の堤防の改修も着々と進められ、堤防に沿った農地がすっきりと見渡せるように、そして地域の方が気持ち良く生活できるよう農村環境を保全していきたいと思っています。本郷繁之（郷）

耕作放棄地の草刈り及び木の伐採

草刈り機やハンマーナイフ等



【クライנגルテン】



体験農園（玉ネギ作り）

収穫を楽しみに皆さん張り切りました！



クライングルテン友の会（農園利用者コミュニティ）

月1で懇話会を開催しています。

花壇管理もしています。

【牧山&クラインガルテン収穫祭】

家族連れで賑わう牧山マルシェ



ニンジン袋詰め



フラダンス出番待ち



多数の来場者



おやじバンド演奏



カカシ (テンペコロケ)



NHK 取材

牧山マルシェ大盛況。11月26日(日)当日は好天に恵まれ、これまでで最多の600名以上が、イベントやグルメ、ステージ等多彩な催しを楽しんでいました。

準備やイベントに参加してくださった地元の方、農園利用者、JA関係者、牧石地域の方等多くの皆様のご支援、ご協力により会場には笑顔があふれていました。なお、収穫祭の様子はNHK TV「ドキュメント 72時間」で放送されます。

《多数の模擬店とお世話のボランティア》



【愛育委員会の健康講座】

10月27日（金）に牧山コミュニティハウスで何年か振りに健康講座を開催し、地区内より17名の参加があり、健康に関心が高いと感じました。

岡山市介護予防センター、看護協会から講師を迎え、フレイル（年齢と共に心身の活動が低下して要介護状態に近づく事）予防、チェックを行い、栄養、体力、社会参加の大切さを学びました。ちなみに私のチェック結果はフレイル予備軍でした。（残念！）



【牧山の思い出】

就職から間もなくして牧山・郷地区の実家を離れてから、もう30年以上になる。離れたといっても、自宅と通勤先は岡山市内にあり、実家には両親、その近くには弟夫婦が住んでいるので、折に触れて訪れてはいるのだが、改めて振り返ると、月日のたつ早さを感じずにはいられない。

もともと小学校入学前に埼玉から引っ越してきた。当時、周辺の道路はまだ舗装されておらず、昔ながらの砂利道だったように思う。そのころの記憶はおぼろげなのだけれど、春に牧山分校の入学式で目にした満開の桜と、初夏に田んぼを飛び回るホタルを竹ぼうきで追いかけたことは、まるで写真のように脳裏に焼き付いて、ふとした拍子に思い出したりする。牧山分校は平成16年に閉校となり、ホタルも昔ほど見かけなくなったが、私にとって古里の原風景といえる。

30年前と比べると、実家から見渡す郷地区の風景は大きく変わった。平成8年に市民農園・牧山クラインガルデンが開園したからだ。子どものころに収穫作業を（少しだけ）手伝った実家のブドウ畑は、この農園の一部となっている。だからというわけでもないが、ここで畑仕事にいそんでいる来園者を見ると、励ましたい気持ちになる。

農園の西側の山裾には津山線が延びている。ここを1両編成がコトコトと走っていく姿は、どこか外国の風景のようでもある。岡山市中心部から約30分の距離で、これほど水と緑に囲まれた場所はそれほどないと思う。思い出の詰まったこの古里を、どんな形であれ、これからも応援していきたい。 桑原 功（郷）



【編集後記】

今号はイベント等お伝えする記事が沢山あり、頁を増やして発行しました。牧山コミュニティ「だより」は、広報部会が編集しています。感想やご意見をお待ちしています。

◀広報部会メンバー▶ 部長 川上艶子（中谷）、委員 北村明久（上谷）、宇野裕美子（大戸）、谷合 守（下谷）、山本純二（中谷）、山本哲雄（上谷）、久住哲哉（郷）、角道理江（郷）、青江智子（中牧）、藤原洋一（中牧）